

慈眼寺

整備だより

第九号

平成十六年十月

慈眼寺整備委員会

委員長 大野悟

あいさつ

整備委員長大野悟
お寺の庭の木々も少しずつ秋の色になってまいりましたが、檀家の皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。

平成十二年に慈眼寺整備委員会を発足しまして四年間、檀家の皆様、教区のお寺様、役員、各業者のご支援とご協力を頂き十一月二十八日に落慶、晋山式を挙行する運びとなってきました。これも偏に皆様方のお陰と心より厚く御

礼申し上げます。

さて、落慶、晋山式は仕来たりを重んずる曹洞宗の永平寺、総持寺、福巖寺はじめ教区のお寺様約五十名のご出席を賜り厳かに執り行われます。

江戸時代の建立から百五十年、新しい青柳山慈眼寺が出来上がり、これから二百年、三百年と後世の方々の引継ぎと、現住職の浩道和尚のお披露目の式であります。皆様方のお出かけを心よりお待ちしております。

なお、式のスケジュ

ールに就きましては、十一月二十七日は本寺であります福巖寺の方丈様はじめ教区の寺院の住職様、整備委員会の役員によりますりハーサルを行います。

十一月二十八日は下市場公民館において稚児行列に参加いただく皆さんの受付を開始し、衣装の着付けと化粧をしていただきます。九時よりパレードが発行いたします。途中より親元より出発した新命和尚行列と合流し、お寺へ向かいます。お稚児さんは灌頂師というお坊さんより本堂前にて知恵の水を頭に頂きます。五百名を超え

る参加を頂き感謝申します。五

し上げます。
檀家の皆様は午前九時より行列を見守っていただき、お寺へと進み受付を済ませてください。招待券と引き換えに記念品等をお渡しいたします。

来賓およびお寺様五十名による式になりますと、皆様方には本堂へお上り頂くスペースが全く有りませんので悪しからずご了承ください。詳しくは後のページにてご案内いたします。

最後に、この式が大に開催できますよう皆様のご理解とご支援ご協力を賜りますとともに、これから寒さに向かいますので、ご自愛のほどお願い申し上げます。

式典案内

落慶式と晋山式は別の式典ですが、新しい住職（新命和尚あるいは単に新命といいます）の就任式である晋山式にあわせて本堂などの普請をするため、その落慶も兼ねて執り行うことが多いのです。以下順に説明させて戴きます。

◎十一月二十七日（土）

①首座入寺式（13:30）
これは、晋山式に付随したものです。新命和尚の就任に当たっては、若い僧侶を集めて百日間の修行道場を営みます。これを結制といいます。このとき一番弟子となつて道場をとり仕切るのが首座（しゅそ）です。式典は、まずこの首座を慈眼寺へ迎える行事から始まります。今回の首

座は、師勝町・仁昌寺の暢祥上座という気鋭の青年僧が務めます。

②この入寺式に続いて土地堂念誦（どじどうねんじゆ）というお経があります。これは結制修行が安穩に進むように土地神に祈るものです。

③そのあと本則行茶という儀式を行います。これは、お茶を飲みながら翌日の法戦式のテーマを述べるものです。またこのときに配役等の紹介があります。

④開山歴住忌（15:00）
慈眼寺の開山和尚はじめ歴代住職の法事です。開山は福嚴寺二二世の義山和尚という人で、嘉永元年（一八四八年）に亡くなっています。この後、翌日の式典の予行演習をやります。

◎十一月二十八日（日）

①稚児御練（9:30）
お祝のための稚児行列です。下市場公民館から慈眼寺まで練り歩きます。先導の僧侶とご詠歌隊が先頭にたちます。本堂の前で、灌頂といって頭に水をつけてもらいます。これは仏の知恵を注ぎ込むことを象徴しており、子供たちの心身の健康を祈るものです。役稚児は本堂の中に入って道場清めの行事に参加します。

②新命行列（9:30）
新命和尚は、安下処というところから出発します。これは親元ともいつていわば新命和尚の保証人というような意味です。新命は安下処で威儀をととのえ、提灯や旗をかざした行列を組ん

で、稚児行列に合流して慈眼寺山門に向います。

③落慶法要（9:00）
新命の行列が発する前に本堂では落慶法要が行われます。本寺である福嚴寺の方丈様を導師に迎え般若心経を誦んで整備事業の竣工を祝い伽藍の安泰を祈ります。

④山門頭到着（9:45）
山門に到着した新命和尚はそこで住職の決意を表した短い詩文（これを法語といいます）を読み上げます。その後太鼓の音に合わせて本堂に上がります。その後、本尊様、土地神、達磨様、開山の前で焼香、礼拝、法語の読みあげをします。続いて庫裏に行き印鑑など寺務の引継ぎを受けます。

⑤ 晋山上堂 (10:30)

ここから晋山式になります。新命和尚は須弥壇に上がり、世界平和や各家の繁栄や先仏への報恩などを祈念して、法語を唱え香を焚きます。

つぎ

に白槌

(びゃ

くつい)

といっ

て、問答



を促す儀式があります。この白槌師は福厳寺方丈様が務められます。

白槌が終わると問答が始まります。首座はじめ数名の僧侶がつぎつぎと問答を仕掛けては新命の説法を求めます。問答が終わると、新命は反省の言葉や、参列者への感謝を述べ、その後白槌師が問答の終了を

見届けたことを証明する宣言をします。

⑥ 落慶式典

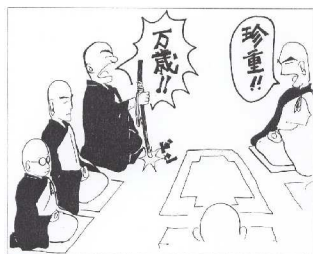
引き続き落慶式典が始まります。これは整備事業の完成を祝い、功労のあった方々や、事業者の方々に感謝状の贈呈があります。整備委員会には永平寺管長様から御専使によって授与されます。そのほか祝辞やお礼の挨拶などがあります。これで午前の部は終わりです。

⑦ 檀信徒総供養 (13:30)

これは新命住職が始めて導師を務める法要になります。ご先祖様方のご縁によってこのような立派な伽藍ができたことを感謝し供養をいたします。できるだけ多くの方々のご焼香をお願いします。

⑧ 首座法戦式 (14:00)

いよいよ最後の行事になります。新命の下で修行に励んだ首座和尚が大衆の面前でその力量を見せる問答をするのです。これは曹洞宗の僧侶にとって最初の晴れ舞台になるのです。最初に問答の口火を切る弁事という役は、西尾・安祥寺の謙伸沙弥で今年六歳になります。



ついでながら、首座を務めた僧侶は、そのあと本

山へ上り、瑞世という一日住職を務め、そのあと晋山に臨むことになります。

以上でおわります。

お仏膳の受付について

今年も年末が近づきましたので、来年のお仏膳を受け付けます。昨年と同じく一膳あたり一年分で千五百円とさせていただきます。寺参りの折などにお申し込みいただければと思います。なお、お下がりはお持ち帰りいただきますようお願いいたします。

和尚敬白

住職 春日井浩道

式典まであと一ヶ月ほどになってしまいました。何を準備しなければならぬのか、気ばかり焦っております。皆様方のご鞭撻、ご叱責を頂きおろおろしておりますが何とか乗り切りたいと思っております。宜しくご指導、ご助力のほど御願ひ致します。合掌。

編集後記改め闘病記

庶務 伊藤忍

前回の編集後記に整備事業もことごとく終わってあとは今年の暮れの落慶・晋山式を待つばかり、「よくぞこまで」が実感ですと書きましたが、やはり油断はいけませんでした。

まもなく体調が勝れず検査入院することになりました。二、三日も入院すればと高をくくって入院当日の早朝も荒地の草刈を一時間ほどやり、軽い気持ちで病院へ出かけましたが、それが最悪の結果で、こんな大事になろうとは全くの予想外で情けないことこの上なしです。「だより」の編集始め三百年に一度の行事にもお手伝いできず、何もか

も中途半端にしてしまい全く申し訳ありませんでした。ご住職は勿論、委員長始め関係の皆さんにもご心配をおかけしました。

七月三〇日に入院以来八月中はつらい検査の連続。九月に入って最初の手術があり、これは五、六時間かかりました。その抜糸も終わらないうちに同じ場所を開いて二度目の手術です。こちらは十三時間もかかりました。そのあと現在に至るまでは全く悪夢の如しです。強い痛みと発熱は当然、体中のだるさや絶飲絶食中の口の乾きは想像を絶するものでした。とにかく言語に尽くしがたい苦痛を味わいました。

それでも最近漸く絶

望のふちから立ち上がり、早く退院できるように日夜精進努力を続けられるようになりました。今のところ全く食欲はありませんが、何とか少しでも食べて体力をつけ、また涙を流しながら痛みをこらえて病院の廊下をコツコツと歩行訓練で歩いております。少しでも早く退院できるとはいかないかと・・・

ひとえに、皆様と一緒に十一月二十七、二十八日の落慶・晋山を迎えたいと思っております。

なんととしても今一度慈眼寺の庭に立って、浩道和尚が青柳山に晋(すす)すまれる儀式をこの目に焼き付けたいとひたすら願いつつ毎日を送っております。

「追伸」忘れてならな

いのは、十三時間に及ぶわが手術にあたられた執刀医始めメンバーの精神力、体力さらには医療技術と自信に心から敬服いたしました。これが医者魂と申しましようか。

術後体調不十分な状態での乱筆乱文でした。乞お許し。これが今のところ精一杯であります。

「慈眼寺整備だより」第9号

発行日 平成16年10月12日

発行人 春日井市下市場町5-7

慈眼寺整備委員会

委員長 大野悟

編集 庶務 伊藤忍

連絡先 電話 0568・81・6801